



令和6年4月

## 鉄道技術センター を新設しました

左から藤田理事長、玉井鉄道技術統括役、渡邊鉄道技術センター長

鉄道・運輸機構（JRTT）では、鉄道建設に関する技術力を強化する体制を構築するため、令和6年4月に鉄道建設関係部門の組織体制を改編し、新たに鉄道技術センター（以下「センター」という。）を設置しました。

この改編は、令和4年度から令和5年度にかけて、JRTTが推進してきた鉄道建設プロジェクト（西九州新幹線（武雄温泉・長崎間）、神奈川東部方面線（相鉄・東急直通線）および北陸新幹線（金沢・敦賀間））が相次ぎ開業し、事業の転換期を迎えたことを契機として行ったものです。

### 鉄道技術センターの概要

センターにおいては、その設置に伴って新たに設置した鉄道技術統括役が常駐し、鉄道に関する土木、軌道、機械、建築、電気の技術系統全体を俯瞰した技術マネジメントを行います。また、センター運営の責任者たるセンター長の下に企画部、調査部、設計部、設備部、電気部の5部17課を置き、約300名の職員（再雇用、嘱託などを含む）が従事して

います。センターの所在地は、東京都港区芝公園とし、センター設置に伴い廃止した旧東京支社のオフィスに引き続き活用しています。

### 鉄道技術センターの役割

センターの役割は、鉄道に関する高度な専門技術を集約することにより、JRTTが推進する鉄道建設プロジェクトに対する技術的な支援を効果的に行うとともに、これまで数々の鉄道建設プロジェクトを経験する

ことで培ってきたスキル・ノウハウの確実な維持・承継を図ることです。また、従来の鉄道建設プロジェクトの実施機関とは一線を画した専門技術や情報を蓄積、集約したセン



設立式の様子

### 鉄道技術センター組織図



ターを設けることにより、職員のキャリアパス上も、プロジェクトマネジメント能力の向上を志向するだけでなく、専門技術を究めることを志向する複線的な道筋ができ、組織の活性化と総合力の向上につながることも期待しています。

### 鉄道技術センターの将来像

JRTTは、第5期中期計画（対象期間：令和5年度～9年度）に掲げた取組を推進しているところですが、同計画には、これまでどおり果たしてゆく着実な交通ネットワーク整備による社会貢献はもとより、自然災害の激甚化や運輸施設の老朽化などの運輸・交通分野を取り巻く課題や2050年カーボンニュートラルの実現をはじめとする社会的課題への対

応、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進なども掲げています。センターは、これらの課題解消、取組の推進についても技術面からのアプローチで重要な役割を担っていきます。

また、これまでJRTTが得意としてきた「鉄道建設技術」に留まらず、鉄道施設のライフサイクル（調査、計画、設計、施工、維持管理）を通じた、より広い範囲の「鉄道技術」の習得、研鑽、向上を図り、技術力のスパイラルアップを実現していきます。

さらに将来的には、JRTTがわが国の鉄道技術のプラットフォームとして、わが国が抱える鉄道政策上の課題などに対して最適な技術的支援を行うなどの貢献ができるように、そしてJRTTが「未来の交通ネットワー



設立式で挨拶する玉井鉄道技術統括役

クづくりを託される組織」として国民の皆様から評価していただけるように、センターがその一翼を担うことを目指していきます。そのために、センターに所属する職員が切磋琢磨し、力を結集して組織力の向上を図ってまいりたいと思いますので、ご支援の程よろしくお願ひします。